

# くんまの民話残したい



住民から地元の昔話・伝説を聞き取る学生（右端）と二本松康宏教授（右から2人目）  
―浜松市天竜区熊の熊ふれあいセンターで

静岡文化芸術大の二本松康宏教授（伝承文学）のゼミが、浜松市天竜区の熊地区に伝わる昔話と伝説の調査を始めた。3年生4人が6月上旬から現地を訪れ、住民からの聞き取りを重ねている。二本松教授は「この地域には、口伝で語られてきた古い物語が原型のまま残っている可能性がある」と期待する。（野瀬井寛）

## 天竜区で文化芸大生

同ゼミは2014年から北遠での民話採録を始めた。これまでに水窪、龍山、春野地域での調査を終え、成果は毎年出版している。今対象の熊地区（熊、神沢、大栗安）は高齢化が進んでおり「数年後には多くの物語が失われてしまつ」と学生は危機感を持つ。背景調査も含めて20回以上の訪問を予定し、来年3月までに成果をまとめる。

3回目の現地調査となった15日は、熊ふれあいセンターなどで学生が住民に面会し、計13人から聞き取った。当初は緊張の面持ちだ

## 地域住民から聞き取り

ったが、住民らの思い出話を糸口に会話を重ね、次第にうち解けた。

住民は「お寺が火事になった時、天神様が逃げていったという森がある」「山仕事に持っていた弁当を動物に食べられてしまふことがあって、昔の人は『そらキツネに化かされた』と言ったもんだ」などと伝承を紹介した。

学生は「誰もが知っているような昔話も聞きたい」と希望し、住民は『一寸法師』や『浦島太郎』などの童話も自分の言葉で語って聞かせた。

広浜波貴さん(21)は「私たちは『桃太郎』も活字になった形でしか知らない。語ってくれた話では、情景描写や擬音語が異なっていて面白い」と調査に手応えを示す。「地域の人と人間関係を築いて、ようやく話を聞けたときがとてもうれしい」という。

熊は秋葉山と鳳来寺山（愛知県新城市）を結ぶ街道の宿場町で、かつては巡礼者が行き交った。二本松教授は「熊には三河との文化交流の跡が残っている。物語がどのように伝播してきたかを解明できるかもしれない」と意義を語った。